令和3年度第2回国立市保健センター運営審議会（書面開催）議事録

国立市保健センター運営審議会
会長 行平公彦

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、令和3年度第2回国立市保健センター運営審議会は下記のとおり書面にて開催した。

記

1. 開催方法

委員へ審議会資料を送付し、書面により意見等を聴取した。

- (1) 資料送付日 令和4年2月18日（金）
- (2) 意見等聴取期間 令和4年2月18日（金）～令和4年2月28日（月）

2. 出席者（返信があった委員）

行定委員、佐藤委員、下平委員、辛島委員、高柳委員、松浦委員、小鷹委員、安江委員

3. 審議会成立要件

委員9名の内8名が出席のため、国立市保健センター運営審議会規則第3条第2項の規定に基づき、委員の半数以上が出席のため会議は成立した。

4. 審議案件

議題（1）令和4年度予算について

議題（2）国立市休日診療センターの休日準夜応急診療休止について

5. 審議状況

議題（1）について

承認 8名 不承認0名

原案どおり承認されました。

議題（2）について

承認 8名 不承認0名

原案どおり承認されました。

6. 議題に関する委員からの意見及び質問並びに市からの説明及び回答

【議題（1）】 令和4年度予算について

【小鷹委員】 予算に関して、オンライン等での説明が本来は必要と考える。大きな増減でしか判断できないので、差異の説明を本当は聞きたい。

- ・歳入では、都3(4)16万円増の説明はあるが、それより金額の多い都2(2)900万増、(4)600万増、(6)(7)300万増の説明がない。
- ・歳出では、1(2)900万増、2(2)500万増の説明、2(5)に含まれる「健康まちづくり戦略検討事業」とはなにか。

《質問》 都2保健衛生費(2)医療保険政策区市町村包括補助事業補助金 900万増
⇒市内に全部で15ある市町村包括補助事業の合算数値になります。今年度はPCRセンターの運営にかかわる経費として支出される補助金1,000万を歳入として組み込みました。

《質問》 都2保健衛生費(4)区市町村との共同による感染拡大防止対策推進事業補助金 600万増
⇒新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、電話相談保健師等を増員したその人件費に対する補助金になります。

《質問》 都2保健衛生費(6)高齢者肺炎球菌ワクチン定期接種補助金 300万増
⇒都が新たに始めた補助金を歳入として、当初予算に見込んだものです。

《質問》 都2保健衛生費(7)とうきょうママパップ応援事業補助金 300万増
⇒主たるものとして、ゆりかご事業2,658,000円、産後ケア事業800,000円の増です。
ゆりかご事業は、妊婦の方に面談を行う事業です。これまでは、妊婦面談をした方にカタログギフト5,000円分を贈呈しておりましたが、令和4年度からは、利便性等を考慮して、様々な用途にお使いいただけることも商品券10,000円分を贈呈する内容に変更予定であり、こちらの分の増額となります。

産後ケア事業は、産後のケアや育児支援を目的として、①施設への短期入所、②施設への通所、③ご自宅への訪問の3つのメニューで実施しております。令和2年度から実施しておりますが、申請数の増加（特に①）を受けての増額です。

《質問》 1保健衛生総務費(2)保健センター会計年度任用職員報酬 900万増
⇒新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、電話相談保健師等を増員したその人件費です。

《質問》 2予防費(2)母子保健関連経費 500万減
⇒主たる理由は、近年の出生数低下に伴う妊婦健診、6～7か月児健診、9～10か月児健診等の実施件数の減少です。

参考として、直近3年間の4月1日時点での0歳児の人口数は以下のとおりです。

平成31年…519人、令和2年…473人、令和3年…442人

《質問》 「健康まちづくり戦略検討事業」とはなにか
⇒「2025年問題」及び「2040年問題」への対応として、市がこの間進めてきた地域包括ケアのまちづくりの経験等を踏まえ、総合的な「健康・医療・福祉のまちづくり」「豊かな食と文化を志向するまち」の実現をめざして、「健康まちづくり戦略」の策定及び必要な事業について検討していくものです。

【松浦委員】 諸収入の1. 雑入(3)「6,565千円」は何に使うものなのか教えて

いただきたい。

⇒高齢者に対する個別アプローチ（ハイリスクアプローチ）という後期高齢者を対象とし、面接、訪問による保健指導を実施し、事業の前後で血圧、生活習慣病の現状を維持、改善し、介護予防・QOL向上を目指す事業を実施するための企画・調整を担当する保健師と、通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）というフレイル予防事業、百歳体操事業などの地域支援事業を担当する保健師の人件費に充当されます。

【議題（2）】 国立市休日診療センターの休日準夜応急診療休止について

【佐藤委員】 準夜の診療の一旦停止、今後の検討をよろしくお願いします。

【下平委員】 近隣市で準夜診療を行っていないとのことで、コロナ禍では夜間の発熱に対応できない等から、コロナが落ち着いた際に再開、廃止を検討するという要望は適切と思う。

【高柳委員】 コロナ禍での診療はとても大変だと思う。また、患者も少ないということなので、休止で問題ないと思う。落ち着いたらまた考えていくということもいいと思う。

【松浦委員】 大病院のない国立市が安心・安全で住みやすい街と言われるひとつに、医療体制の整備があると思う。それは利用者が一人になろうと365日24時間いざという時に診てもらえる診療センターがあることです。特に小さな子どもや（難病のある）高齢者のいる家族にとっては、センターは暗夜の一灯です。例え代替措置がとられるにしても、それは今までの診療センターに優るとも劣らないものであってほしいと考えます。

【小鷹委員】 コロナのため昼間→1/5、準夜間→1/10と激減しているが、終息すれば元に戻る可能性はある。他市の例をみても、昼間は維持する必要はあるが、準夜間は救急に任せ廃止もありうると思う。

本件のような場合、以下のような実態の概要説明がまず欲しい。

- ・1年間のうち何日をカバーしているのか。
- ・受診者のうち、本当に休日診療が必要だったのは何割くらいか。残りは平日診療を待つことが可能だったのか。
- ・医師会より、毎回医師何名、看護師何名が常駐したのか。

《質問》 1年間のうち何日をカバーしているのか。

⇒令和2年度は72日をカバーしました。令和3年度は同様の見込みです。

《質問》 受診者のうち、本当に休日診療が必要だったのは何割くらいか。残りは平日診療を待つことが可能だったのか。

⇒個別の診療内容に関わることなので、詳細は分かりかねますが、およその数字については医師会に確認していきたい。

《質問》 医師会より、毎回医師何名、看護師何名が常駐したのか。

⇒市には執務した医師1名の名前が報告として上がってきています。その他の人数については医師会に確認していきたい。

7. その他の意見

【小鷹委員】 適切な検討審議のために、今後オンライン・ハイブリッド等を検討してください。